



Disaster prevention Expert News

# 東北地方 防災エキスパートだより



発行:平成19年10月19日

東北地方防災エキスパート事務局 TEL.022-268-4454(社)東北建設協会内

## 前線による降雨に伴う子吉川の出水で水防活動の指導を行いました



8月22日に、前線がもたらした集中豪雨のため、秋田河川国道事務所管内の子吉川が増水し、はん濫危険水位を超える出水となり、一部ではあと40cmで堤防を超えるほどの出水となりました。

また、漏水や浸水箇所などもみられたため、防災エキスパートの鹿子沢一衛さんが出動し、現場で約5時間に亘り釜段工や月輪工、水みち処理などの水防工指導を行いました。

幸いにも際どいところで水が引き、大きな災害にはなりませんでしたが、洪水の後に上流からもたらされた、家庭ゴミを多く含む大量のゴミが堆積し、子吉川出張所では対応に苦慮したようです。



## 台風9号による降雨に伴う最上川の出水で水防活動の指導を行いました



9月7日神奈川県小田原市付近に上陸した台風9号は、中心気圧965hPaの非常に強い台風で、上陸後ゆっくりと北上し関東・東北を縦断しながら日本海に抜けましたが、この台風による降雨に伴い山形河川国道事務所南陽出張所管内最上川の出水で堤内地に漏水が見られたため、防災エキスパートの方2名が出動し月の輪工3箇所、釜段工1箇所の水防活動を指導しました。

## 前線による降雨に伴う各河川の出水で水防活動の指導等を行いました

9月18日秋田河川国道事務所茨島出張所管内雄物川の前線による降雨に伴う出水で、防災エキスパートの方1名が出動し、出張所～平沢排水樋門間の被災状況の調査を行いました。

能代河川国道事務所二ツ井・鷹巣出張所管内でも同様の降雨による米代川の出水で、18日防災エキスパートの方2名が自主出動され、それぞれの出張所管内の被災状況調査や緊急復旧施工の現場監督などを行いました。また、翌日の19日も二ツ井出張所管内の被災状況調査のために防災エキスパートの方1名が出動しました。

岩手河川国道事務所盛岡・水沢出張所管内でも同様の降雨による北上川の出水で、18日防災エキスパートの方4名が出動し、漏水防止の水防工法の指導を行いました。

## 平成19年度「防災エキスパート研修会」のお知らせ

毎年恒例の「防災エキスパート研修会」を本年度も「東北地方整備局防災対策官」を講師にお迎えし、東北各県で開催します。

防災エキスパートに登録されている方々には、後日、各支所の担当者よりご案内いたしますので、ご出席の程お願いいたします。

日程や開催場所につきましては右記のとおりとなります。

ブロック	開催予定日	会場	住所・電話
青森県	11月29日(木)	アラスカ会館	青森市新町1丁目11-22 017-723-2233
岩手県	11月28日(水)	ホテルルイズ	盛岡市盛岡駅前通7-15 019-625-2611
宮城県	11月5日(月)	ハーネル仙台	仙台市青葉区本町2-12-7 022-222-1121
秋田県	11月21日(水)	秋田パークホテル	秋田市山王4丁目5-10 018-862-1515
山形県	11月20日(火)	メトロポリタン山形	山形市香澄町一丁目1-1 023-628-1111
福島県	11月7日(水)	郡山ビューホテルアネックス	郡山市中町10-10 024-939-1111

## 防災エキスパート体験談 9月18日米代川洪水応急復旧の監督

鹿子沢 一衛

9月18日昼の中、出張所長から現地への要請あり、パンをかじりながら向かった。道路は冠水のため・堤防は作業車両のため、あせる気を抑えて廻り道で現地へ、現地では出張所長・復旧業者がいて大型土嚢で押さえ、月の輪工法の確認をされ、S47年7月洪水の破堤時の状況と似ていたため、その工法で妥当であることを指導、周辺の裏のり面と堤内地の泡状況を監視した。出張所長と巡視したが、異常は見られなかった。

今回の洪水は既往最高水位でエキスパートとして体験し、迂回路・河道状況・地形特性等の熟知が必要とともに現場写真メールの送信方法をマスターしておく必要があった。また、行政・業者とエキスパートとの役割分担と責任範囲を相互確認しておくことも業務の迅速化を図る一手段である。

今後は過去の経験を活かし現役の助っ人であることを心がけ、ボランティア活動として地域に貢献していきたい。

## 福島河川国道事務所管内で台風4号による出水状況調査が行われました

7月15日に、福島河川国道事務所管内の阿武隈川支線荒川流域において、台風4号の本邦接近に伴い、時間雨量30mmの豪雨が継続したため、防災エキスパートの齋藤洋一さんが出水状況調査に出動し、事務所の職員の方々と流況や堤防の状況等を調査すると共に、減水後の処置などについても検討しました。

## 湯沢河川国道事務所で雄物川上流河川管理勉強会が行われました



6月20日に、湯沢河川国道事務所において「平成19年度雄物川上流河川管理勉強会」が開催され、事務所の職員の方や自治体職員の方、河川巡視員、監督補助業務員、維持工事業者、関係住民の方などが、河川管理に関する様々なテーマについて受講し討論を行いました。

この勉強会に、防災エキスパートの方4名が参加し、うち3名の方が「河川巡視の留意点と課題」、「洪水時における堤防の監視」、「堤防植生の実態と課題」と題し講師をつとめました。

## 馬淵川洪水危機管理演習が行われました



7月24日に、「馬淵川の総合的な治水対策協議会」が、大雨を想定したロールプレイング方式の危機管理演習を行いました。青森河川国道事務所長の要請を受けて、防災エキスパートの方々5名が参加し、マスコミ役や演習の評価・講評役を行いました。

この演習は、東北地方整備局、関係地方自治体の合同演習で、ロールプレイング方式は初の試みではないかと

思われますが、各関係機関が一堂に会しての貴重な経験となったようです。



## 最上川子ども交流会で水防体験指導を行いました



7月29日に、山形河川国道事務所で「羽越水害40年行事」の一環として「最上川子ども交流会」を開催し、30人の子ども達は水辺の楽校体験や河川改修・災害対策車見学、羽越水害の学習、長井ダムの見学などを行いました。それらのカリキュラムの中で防災エキスパートの宮内利夫さんが水防体験指導を行いました。

子ども達は、少々緊張しながらも結びびや土嚢積みなどを熱心に体験していました。



## その他の活動について

- ・高瀬川河川事務所で6月5日に管内の重要水防箇所合同巡視が行われ防災エキスパートの方5名が参加しました。
- ・新庄河川事務所管内の各出張所で6月27日、7月2日、12日、19日の各日「土砂災害防止月間」に伴い、土砂災害危険箇所の合同点検が行われ、防災エキスパートの方延べ6名が参加しました。
- ・山形河川国道事務所で6月28日、大規模災害を想定したロールプレイング方式の危機管理演習が行われ、6名の防災エキスパートの方々が参加されました。
- ・新庄河川事務所で7月26日、堤防が決壊した場合の緊急対策シミュレーションについて、職員と防災エキスパートの意見交換会が行われ、防災エキスパートの方1名が参加しました。
- ・新庄河川事務所で低水路護岸工事施工中に旧施設の施工不良が発見されたことから、管内の類似施設の緊急点検を行い、7月31日に防災エキスパートの方1名が職員と合同の点検に参加しました。
- ・能代河川国道事務所道路ふれあい月間行事の一環として道路防災点検が行われ、8月29日6名の防災エキスパートの方が参加しニッ井東トンネル他6箇所の点検と、講評、懇談会を行いました。
- ・東北地方整備局で9月3日総合防災訓練が行われ、青森・岩手・湯沢・酒田・福島等の9事務所、4ダム管理所で42名の防災エキスパートが出動しました。最近は本当に出動員数が増えています。

## 平成19年9月17日～前線に伴う大雨被害の記録

(東北地方整備局HPより抜粋)

### 気象状況

停滞した秋雨前線と温帯低気圧に変わった台風11号に台風12号からの湿った空気が流れ込んだ影響で、東北地方北部は16日夕から17日にかけて大雨となった。

岩手県や秋田県を中心に延べ約3万人に避難指示・避難勧告が出るなど影響がでています。

また、気象庁によると、18日午前0時までの24時間の雨量は、岩手県花巻市豊沢で276ミリ、秋田県仙北市鎧畑で244ミリと、いずれの地点とも観測史上最高となりました。

### 米代川では既往最高水位を記録

米代川では、既往最高水位を記録した35年前の昭和47年7月洪水を上回る記録的な洪水となりました。

なお、ニッ井基準地点上流の流域平均雨量としては、177ミリ(24時間雨量)を記録し、概ね60年に一度程度発生しうる降雨規模だったと想定されます。

### 大雨の脅威(米代川)

#### 家屋の倒壊



【能代市ニッ井町】

#### 阿仁川の堤防決壊



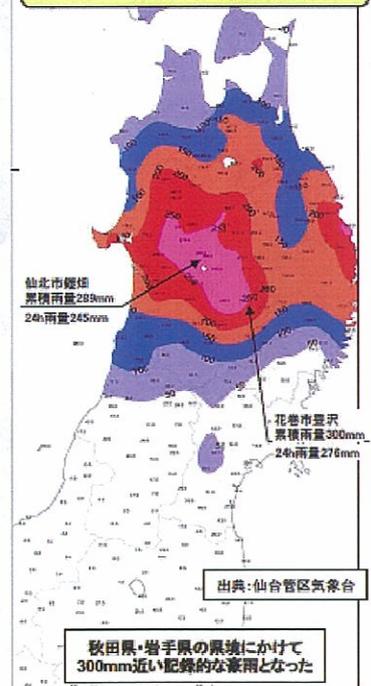
【北秋田市 李岱地区】(補助河川)

#### 米代川堤防の被害



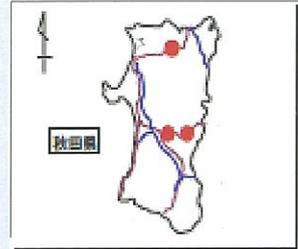
【能代市朴瀬地区】

H19.9.15 19:00～9.18 12:00 現在



## 秋田県内の国道7号、46号の3箇所で通行止め

- ◆ 国道7号大館市「早口橋」において、早口川の水位上昇により通行止めを実施しました。
- ◆ 国道46号大仙市協和稲沢地内で、連続雨量が規定値に達したため、通行止めを実施しました。  
また、同国道仙北市田沢湖卒田地内では、路面冠水により通行止めを実施しました。



## 北上川上流は昭和22年9月洪水に次ぐ水位を記録

北上川上流域（紫波橋地点）では、既往最高水位を記録した97年前の明治43年9月の大洪水、戦後の大洪水である昭和22年9月洪水（カスリン台風）に次ぐ水位を記録しました。

## 命と財産を守る治水対策（北上川）

### 満々と水を溜める一関遊水地



【一関市】

### 懸命な水防活動



【盛岡市中川町（盛岡駅南側）】

### 堤防により市街地浸水を防ぐ



【盛岡市（盛岡駅周辺）】

## 編集後記

9月17日、洪水で米代川は既往最高水位・北上川上流は戦後最大降雨を記録し、直轄・補助管理区間で大きな災害に見舞われ、災害はいつも新しい形で起きています。従って我々に自然現象を変えることはできないが、それによって起こる被害を小さくする努力は出来ます。

- ①災害を予知する努力（自然現象の状況を少しでも知るようにする）
- ②被害の発生を少なくする努力（災害に強い環境を作りあげていく）
- ③被害をできるだけ少なくする努力（緊急事態でも対処活動を行えるようにする）
- ④復旧活動を効率的に行う努力（少しでも早く平常の生活に戻れるようにする）

以上の努力が不可欠であります。今年度も防災エキスパート研修会の日程が決まり、防災力の向上という観点からOBの持つ技術、ノウハウを研修の場でも生かして頂ければと思います。

多数の参加をお待ちしております。

防災調査部長 山内芳朗 記